

(説明資料)

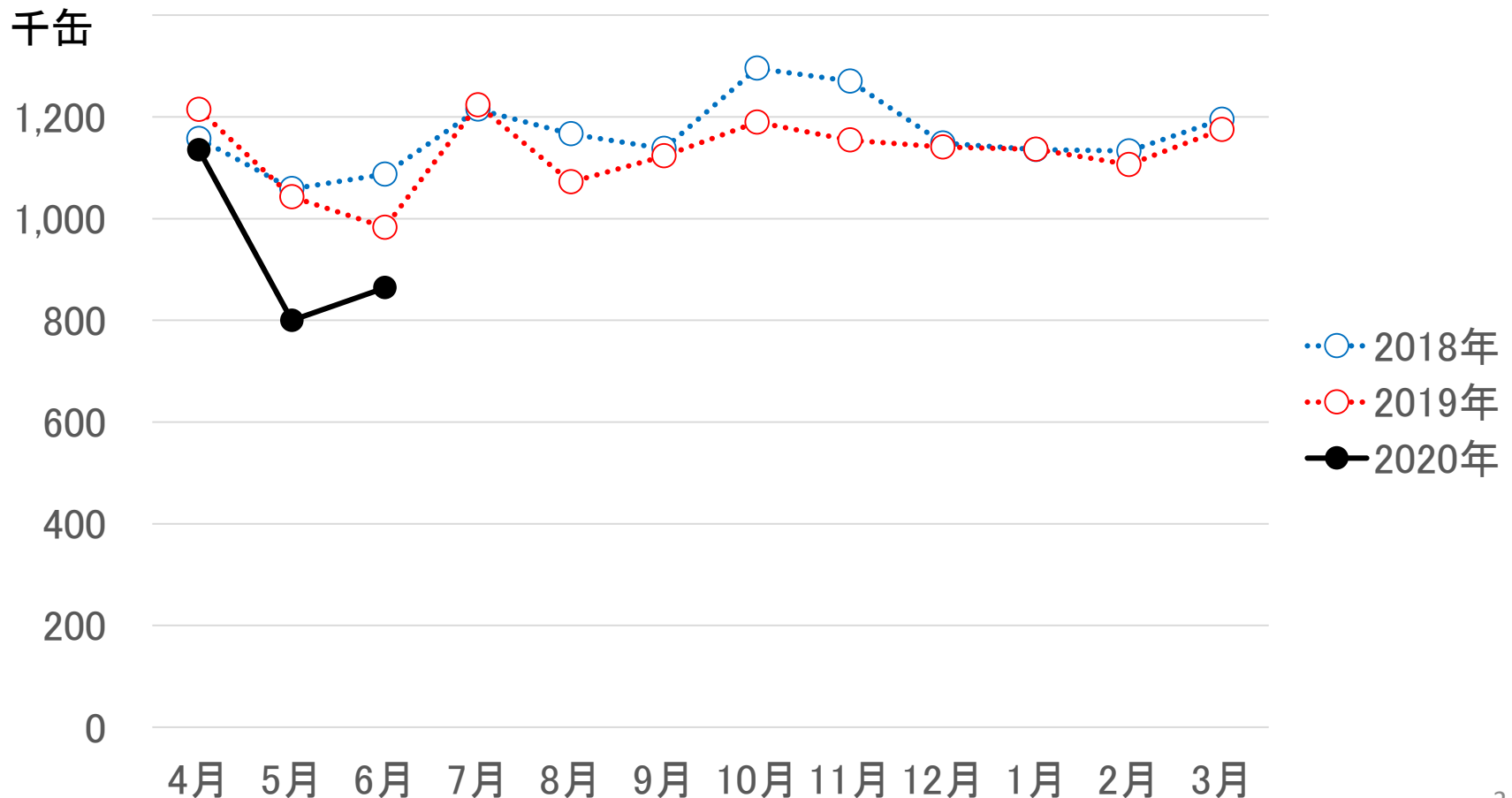
# 2020年度第1四半期決算

20年7月29日

JFEコンテイナー株式会社

# ドラム事業販売環境(国内 全国200リットル新缶ドラム缶数量)

2020年4-6月におけるわが国経済は、世界的なコロナ禍拡大の影響を受けて大幅に悪化し、当社の主要な需要家である化学業界も急激な減産に見舞われて、国内における当社の事業分野である産業用容器業界の全国200リットル新缶ドラム缶の販売実績は前年同期比で13.6%減の2,799千缶まで落ち込みました



# ドラム事業販売環境(中国)

## ドラム事業販売数量・売上高

また当社が国内とならんで事業展開している中国においてもコロナ禍の影響は深刻で、特に当第1四半期連結累計期間に組み込まれている中国の1-3月においては当社中国四工場も1月末の春節から半月近く操業停止を余儀なくされる等、事業環境は非常に厳しいものでした

この事業環境の悪化を受けて国内、中国とも販売数量は大幅に落ち込み、両者を合わせた販売数量は2013年1Q以来の低水準となる前年同期比▲20.1%減の1,981千缶となり、売上高はこの売上数量減及び元安(16.48→15.30円/元)による為替差で、前年同期比▲1,361百万円、▲18.1%減収の6,150百万円となりました

単位:千缶/百万円

	2019年4-6月	2020年4-6月	差	増減率
全国販売数量	3,240	2,799	▲441	-13.6%
当社ドラム事業販売数量	2,480	1,981	▲499	-20.1%
当社ドラム事業売上高	7,512	6,150	▲1,361	-18.1%

# ドラム事業及び高圧ガス事業経常利益

## ドラム事業

このようにリーマンショック以来ともいわれるコロナ禍の影響により、国内、中国ともに未曾有の事業環境悪化に直面する中で、当社としては従来から進めている品種構成改善やコストダウンに加えて、6月から本社と子会社を含む国内5工場での休業を実施する等、あらゆる企業努力を尽くして収益改善をはかりましたが、当第1四半期連結累計期間のドラム事業経常利益は前年同期比▲319百万円、▲43.6%の減益の413百万円となりました

## 高圧ガス容器事業

当社が取り組んでいる事業分野の内、医療用酸素容器の分野ではコロナ禍の影響による外出自粛で需要が停滞する等の悪影響を受けており、高圧ガス容器事業全体としての売上高も前年同期比▲18百万円、▲31.3%減収の41百万円、経常利益も前年同期比▲2百万円の▲37百万円となりました

単位：百万円

	2019年4-6月	2020年4-6月	差	増減率
経常利益	681	351	▲329	-48.3%
ドラム事業	733	413	▲319	-43.6%
高圧ガス容器事業	▲34	▲37	▲2	
その他	▲17	▲24	▲7	

## 連結売上高・経常利益・当期純利益

以上の各セグメントを合わせた当期の当社の連結業績は  
 売上高が前年同期比▲1,380百万円、▲18.2%減収の6,192百万円、  
 経常利益は前年同期比▲329百万円、▲48.3%減益の351百万円となりました  
 尚、外注化により不要となった四日市の倉庫を売却して70百万円の特別利益を計上し  
 ており、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比▲183百万円、  
 ▲40.3%の減益の272百万円となりました

単位：百万円

	2019年4-6月	2020年4-6月	差	増減率
売上高	7,572	6,192	▲1,380	-18.2%
営業利益	642	317	▲325	-50.7%
<b>経常利益</b>	<b>681</b>	<b>351</b>	<b>▲329</b>	<b>-48.3%</b>
特別損益	0	70	70	
法人税等	-224	-149	74	
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>456</b>	<b>272</b>	<b>▲183</b>	<b>-40.3%</b>
売上高経常利益率	9.0%	5.7%	-3.3%	

## 連結業績予想

新型コロナウイルス感染症の今後の感染拡大や収束時期等についてはいまだ不透明感が大きく、当社グループの業績への影響を予測することは非常に困難ではあり、2021年3月期の連結業績については合理的な予想は難しく、今回は見送らせていただき今後可能となった時点で速やかに開示させていただきます